

事務事業名	八田保育所保育活動費		所属部局	保健福祉部		単位番号	5142												
			所属課室	八田保育所		課長名	長谷部 成才												
	☐ 実施計画事業		所属担当			担当者名	長谷部 成才												
基本政策	基本計画	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目									
				01	一般	0	3	0	2	0	4	0	3	0	0	6			
政策	計画体系	17 社会福祉の充実	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業															
				☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業															
施策		28 児童福祉の充実	☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業																
			☐ 義務化されている協議会等の負担金																
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度)		法令根拠	児童福祉法、南アルプス市立保育所条例、南アルプス市立保育の実施に関する条例															
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 保育所嘱託医報償費・講師謝礼・職員旅費・事業等の消耗品費・教材費・世代間交流費食料費・保育証書印刷代・卒園アルバム・教材修繕料・給食賄い材料費・児童きょう虫・寄生虫・尿検査料・職員細菌検査料・バス借上げ料・職員研修負担金等の児童の保育に関わる経費であり、児童数の増減により毎年変更する。			事業費の主な内訳 (22年度)															
				項目(細節)				金額(千円)				項目(細節)				金額(千円)			
				報償費				285				旅費				15			
				消耗品費				1,917				食料費				45			
				印刷製本				10				手数料				413			
				賄い材料費				3,797				負担金				65			
				使用料及び借上料				132				計				6,679			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	・保育活動に関わる予算の執行。 ・年間行事の実施
23年度活動予定	・保育活動に関わる予算の執行。 ・年間行事の実施
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
・入所児童	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
・健やかにのびのびと育つ児童	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
・児童福祉の充実	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア活動経費	千円
イ	
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア児童数	人
イ	
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア苦情処理数	件
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア保護者満足度	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	9,652	6,679	5,895	6,728	6,728	6,728	
	事業費計 (A)		千円	9,652	6,679	5,895	6,728	6,728	6,728	0	
	人件費	正規職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間								
		人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	(A)+(B)		千円	9,652	6,679	5,895	6,728	6,728	6,728	0	
活動指標		アイウ	千円	6,006.0	2,882.0	2,899.0	3,000.0	3,000.0	3,000.0		
		アイウ	人	207.0	191.0	170.0	170.0	170.0	170.0	170.0	170.0
対象指標		アイウ									
		アイウ	件	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
成果指標		アイウ									
		アイウ	%								
上位成果指標		アイ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	八田保育所は、昭和53年に新築されて、平成14年に改修された。市内でも大規模の保育施設として位置づけられている。社会環境の変化による保育ニーズの多様化に対応しながら保育に心がけてきた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	・園児数の推移を、大きな減少傾向も無くほぼ横ばいの状況にあり、周辺地域等の開発などが無い限り大きな増加には繋がらないと思う。現状維持のまま推移されることが想定される。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	・要望意見等は、寄せられてはいない。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	・職員一人ひとりの資質の向上。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	・職員の保育に対する自己評価。

事務事業名	八田保育所保育活動費	所属部	保健福祉部	所属課	八田保育所
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 ・児童福祉法に基づく政策体系の施策である。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 国が進めていく幼保一体化のこども園とも考え、施設の老朽化又、適正な配置計画もあり、いろんな方面から、広い視野に基づいて、検討していく必要がある。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 ・児童数に応じた保育活動及び職員数であるので適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ・児童数に応じた保育活動及び職員数であり向上の余地はないが、職員一人ひとりの資質の向上が求められる。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ・核家族化、共働きの世帯が今後も増えていくことが予想されるため。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 ・児童数に応じた保育活動費なので休止・廃止は出来ない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・今後ますます保護者から、多様化する要望等が予想されるため、事業費の削減は大変である。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・児童数に応じての職員数でなので、削減の余地はない。臨時職員も現在半数近くになり、限界ではないかと思われる。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 ・入所受付時点では全ての希望児童が入所している。また、保育料についても所得等により定められており公平公正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	・少子化・保育ニーズの多様化に鑑み、児童福祉の子育て相談・保育サービス(延長保育等)について、市民ニーズに応え、保育の過程に必要な消耗品や教材費についても、公平で有効的に分配されており適切である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
① 特色ある保育所を目指す。																								
② 有利な国県等の補助事業の推進																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①																								
②		成果優先度評価結果																						
③		⑧																						
		コスト削減優先度評価結果																						
		⑥																						